

Let's try ACP



楽しいがいっぱい!

子どもたちに体を動かすことの楽しさを伝え、運動・スポーツに対する積極性を引き出すアクティブ・チャイルド・プログラム（以下、ACP）。日ごろの指導においてACPを実践することで、子どもたちの動きは生き生きしてくるはず。子どもたちを楽しく遊ばせるためのヒントを集めてみた!



新連載〈第1回〉

地元の指導者研修会で 講師を務めACPの すそ野を広げていこう!

ACP講師講習会で学んだ
ノウハウを現場で生かす

「幼児期からのACP」の普及・啓発は3年目のシーズンを迎えた。初年度から全国各地で開催されている普及講習会に加え、昨年度からは「講師講習会」がスタート。普及講習会はACPを知ってもらい、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなどの現場で、ACPを実践してもらい、普及を図ることがねらいだ。講師講習会は、修了者自身が地元に戻り普及啓発の役割を担い、具体的にはACPをテーマとする講習会やイベントの講師を務めることができる人材の養成を目的とする。これにより、ACPの普及・啓発活動はどんどんすそ野が広がっていくことになる。

ACPの意義や可能性を紹介していくこの連載。今年度は幼児期からのACP普及講習会や同講師講習会の修了者が直面して

いる実践環境や周囲のサポートなどを現地で取材。修了者がACP普及講習会や講師講習会で学んだ指導のポイントを現場でどのように生かし、どのようなアレンジを加えているかをレポートしていく。

* * *

今回は、昨年12月、福岡で開催された講師講習会を受講した藤原有子さんを取材した。藤原さんは岡山県の川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科の講師。大学では、中学校や高校の保健体育課や養護教諭の教員養成に携わっている。また、岡山県スポーツ少年団専門部会員として、スポーツ少年団の活動にも積極的に取り組んでいる。

3月11日、岡山県スポーツ少年団指導者研修会に藤原さんが講師として招かれ、幼児期からのACPについての研修会が開かれた。参加したのは県内スポーツ少年団の指導者や育成母集団、

リーダーの方々約150名。幼児期からのACPを普及していくために、指導者や育成母集団の理解を深めるのがねらいだ。

藤原さんのように、講師講習会の修了者がACPに関する講習会を、地元で開く機会は今後増えていくだろう。この機会に、藤原さんによる講習内容についてレポートするとともに、ACP講習会を開く際のポイントをピックアップしてみた。



監修／青野 博

日本体育協会
スポーツ科学研究室室長代理

写真／大崎弘雅 イラスト／IKUKO



実技編で笑顔で伸び伸びした実技指導を行う藤原有子さん(右)

理論編ではスライドを効果的に使いACPPの重要性を丁寧に解説

「今回は講義による理論編90分間、実際に体を動かす実技編90分間という構成です。理論編はパートを5つに分け(下記「理論編骨子」参照)、そもそものACPPが必要なのかということから順を追って説明するような構成を考えました。また、参加者に発問の時間を設け、考えてもらう時間をつくることも心がけました。研修会の冒頭にACPPを初めて知った人?と尋ねてみると、かなり多くの方が手を挙げました。それを見てACPPの重要性を丁寧に説明する必要があると感じました。特に今回は、育成母集団の方たちも参加されていたので、指導者はもちろん、育成母集団の方たちの理解を得ることが重要だと考えました」

は、ACPPが必要とされるに至った子どもたちの体力や運動習慣の現状など、背景を説明するためのスライドが収められている。「講師講習会を受講したときには、それぞれのスライドを別個の情報として理解している状態でした。ところが今回、自分が講師をする立場になってあらためてスライドを見直してみると、現在の子どもたちにとってACPPが必要とされた経緯から、ACPPを実践していくうえでのスポーツ少年団の役割につながり、さらに幼児期からこうした取り組みが必要であることがよくわかりました。そこを自分なりにポイントを整理して、ストーリーをつなげていきました」

藤原さんは講師講習会で配布されたスライドファイルを見直すことから、理論編の組み立てを考えていった。ファイルの中には約80枚のスライドが収録され、修了者がACPP関連の講義を行う際に活用できるようにしている。全体の4分の3は幼児期からのACPPガイドブックの解説だが、残り

は、ACPPが必要とされるに至った子どもたちの体力や運動習慣の現状など、背景を説明するためのスライドが収められている。「講師講習会を受講したときには、それぞれのスライドを別個の情報として理解している状態でした。ところが今回、自分が講師をする立場になってあらためてスライドを見直してみると、現在の子どもたちにとってACPPが必要とされた経緯から、ACPPを実践していくうえでのスポーツ少年団の役割につながり、さらに幼児期からこうした取り組みが必要であることがよくわかりました。そこを自分なりにポイントを整理して、ストーリーをつなげていきました」

「理論編の反省点は、講師講習会で配布されたスライドファイルのうち運動遊びや実践事例の動画をもっと活用して、自分なりの理論編コンテンツを作ればよかったと思います。そうすればACPPに対する私の理解はより深まっただけです。また、参加者からいろいろな意見や質問をいただけたことは、すごく助かりました」

実技編ではより現場に近い設定で参加者にたくさんの実技経験を

指導者研修会後半の実技編では、緊張気味だった理論編とは打って変わり、藤原さんは笑顔で



藤原さんは理論編ではやや緊張気味

理論編骨子

1. 子どもの体力・運動習慣の現状
2. 子どもの体力向上のカギ
3. 子どもの心理的特徴
4. スポーツ少年団について(『幼児期からのACPP』第1章より)
5. 幼児期の発達特性(『幼児期からのACPP』第2章より)

実技編骨子

1. アイスブレイク

「落ちた落ちた」「言うこと一緒にやること一緒に」「人間知恵の輪」など5種類

2. 新聞紙を使った遊び

「新聞リレー」「新聞ジャンケン」「新聞雪合戦」など5種類

3. 指導法・指導技術

幼児指導のポイントについての解説

- | | |
|---|---|
| <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 遊びのなかで声と動きを引き出す ● スキンシップの効果 ● 多様な動きを引き出すための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ● 作戦タイムの設定 ● 子ども自身にルールを工夫させる <p>など</p> |
|---|---|

伸び伸びと実技講習を展開した。アイスブレイクから始め、新聞紙を使った遊びがメインとなった。「最初は紹介する遊びの数をもう少し絞り込もうと考えていました。でも、講師講習会の講師に相談したところ、二つひとつの遊びに時間を取るより、参加者にはとにかくたくさん経験してもらった方がいいとアドバイスされた。遊びの数を多くしました。一方、使える道具やスペースの制限もあり、遊びのテーマは、アイスブレイクと新聞紙を使った遊びでシンプルにまとめることにしました。特に、新聞紙を使つてさまざま

まな遊びを展開するには、どうすればいいか考えました」実は、藤原さんは講師講習会の模擬指導の際に、ボールを使った遊びを担当。そのときの反省を生かし、新聞紙を使つて「投げ蹴る」の動きが実技のなかでうまく引き出されるように工夫した。特に、今回の会場は、奥行き10m×幅15m程度のスペース。しかも、限られた道具しかない状況で、約150名が実技講習を受けた。限られた条件のなかでの実技講習としては、二つの模範となるメニューだろう。



笑顔が印象的な藤原さん

また、実技編になると、参加者からの質問や意見ががぜん多くなった。

「講師講習会の際に、ほかの受講者たちから出るさまざまな反応を経験させてもらいました。だから、今回の参加者からの質問もある程度は予測できていました」

講師講習会では、受講者を4〜5人ずつのグループに分けて模擬指導が行われる。グループごとに作成した指導案を基に、実技指導を行う講習だ。各グループの模倣指導では、事前に指導の条件が設定され（指導対象の年齢構成や場の想定、ねらい、遊びの内容など）、ほかのグループの受講者は子ども役として遊びを実践する。幼児なりきりの受講者たちは「考えられる幼児の反応」をことばや動きで表現し、指導者はそれに対応していくことになる。藤原さんはこの講師講習会にならない、今回の指導者研修会では、現場で実際に幼児たちに接するようなことばや動作で、参加

■新聞紙遊びの展開

胸に貼り付けてリレー



新聞ジャンケン



新聞雪合戦



■アイスブレイクの展開

落ちた落ちた



言うこと一緒 やること一緒



人間知恵の輪



者に実技講習を行った。

「参加者の皆さんを子どもと想像して接するように努力しましたが、盛り上げるための合言葉は使い切れず、ことばも難しくなっていました（笑）」

藤原さんは反省しきりだった

が、指導者の大人たちを幼児に見立てて指導するのはなかなか難しいものだ。しかし、今後、ACP講習会を開催するうえで、まずは今回のように、より指導現場に即した実技講習を行うことが大切だろう。そこでさまざまな

意見交換が行われ、ACPを実践するうえでのレベルアップにつながることをなる。

「今回の研修会終了後に、自分のスポーツ少年団でもACPを取り入れてみたいと言ってくれた方が何名もいました。すごう

た。

れしかったです。県内で今回のような講習会を一緒に開ける仲間を増やしていきたいと思っています。今後も地道にACPの普及・啓発に取り組みます」

藤原さんは笑顔で応えてくれた。

*掲載した遊びの詳細は「アクティブ・チャイルド・プログラム」のホームページをご確認ください。URL=<http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/index.html>

幼児期からのACP講習会の基本スケジュール

ACP講習会の基本的な講習内容。会場によって時間や内容は若干変更になる場合がある。

●幼児期からのACP普及講習会 (1日講習)

1. 理論編(講義) 75分
 - ① 幼児期における身体活動・運動の意義
 - ② 幼児の指導法・指導技術
 - ③ 幼児指導に関する実践事例
2. 実技編(運動遊び、指導法・指導技術) 120分
 - ① 運動遊びの紹介
 - ② 運動遊びの展開例
 - ③ 幼児指導のポイント
3. 総合討論 15分

●幼児期からのACP講師講習会 (2日間講習)

- [1日目]
1. 理論編(講義) 150分
 2. 実技編(運動遊び、指導法・指導技術) 120分
 3. グループワーク(指導実践打ち合わせ等) 60分
- [2日目]
1. 指導実践編(模擬指導) 190分
 2. 全体評価会 20分

*平成29年度の幼児期からのACP講習会日程は「JASAインフォメーション」53ページに掲載、もしくは日本体育協会ホームページをご参照ください。

URL=<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid/1061/Default.aspx#普及講習会>

